

二、情報出版企業として

⑧ 資生堂デザインフォーラム(下)

黒木塾から職人塾へ  
物づくりの原点復帰をめざして

平成五(一九九三)年も「イメージと創造」(前期)、「デザインと創造」(後期)のタイトルで創造性をテーマに第三回資生堂デザインフォーラムを開催した。だが、本業が多忙な中で企画を十分詰めきれないまま開催したため、参加者数・売上げ共に予定に届かず営業的には失敗に終わった。

失敗が許されない翌平成六(一九九四)年は、第四回フォーラムのコンセプトに「物づくりの原点復帰」を選び、ウォークマンの生みの親としても知られる元ソニー取締役デザイン本部長黒木靖夫氏にフォーラムの顔役を務めてもらうことにした。

この企画は平成六(一九九四)年九月、翌年三月にかけ、資生堂デザインフォーラム'94「黒木塾―新しいデザイン運動が日本の企業を変える―パウハウス設立後3/4世紀を経た今日が意味するもの―」として開催された。黒木塾がめざしたものは、大量生産大量消費時代が終焉を迎え、日本の製造業がエコロジーやコンピュータ革命といった状況の中で新たな企業理念の構築を迫られている今日、私たちは二十世紀初頭に誕生した世界初のデザイン専門学校パウハウスがめざした「物づくりの原点」への復帰をもう一度学ぶ必要があるというメッセージを伝えることであった。又、ターゲットを製造業に従事する経営、企画・開発、デザイン部門の若手担当者に明確に合わせた。  
受講料を前後期計六回通して九万円と安く設定したこともあって、黒木塾長とわ

が国を代表する建築家やプロダクトデザイナー達との物づくりの理念と実践論のコラボレーションは、百名の定員を大幅に上回る百五十名の参加者を集め、一時冷めかけた資生堂内部の評価をまた高めるものとなった。つづいて第五回のフォーラムは資生堂デザインフォーラムの縮括りとして、「物づくりの原点復帰」路線を更に一歩推し進めるテーマとして、「職人」を選んだ。

この企画は、資生堂デザインフォーラム'96「職人復権・次世代モノづくり塾―ポスト工業社会へ次の一手、熟練の技で新・価値創造を―」と題し、平成七(一九九五)年十二月、翌(一九九六)年八月まで全十回にわけて開催された。森清氏(山野美容芸術短期大学)と富沢木実氏(長銀総合研究所・当時)を総合司会とする企画構成のあらまは次の通りであった。

- 第一講 価値創造主・職人―工作者本能、新旧のはざままで
  - 第二講 一個主義の精神―職人的商品開発、使い手と作り手のはざままで
  - 第三講 量を作る思想―職人的生産様式、設計と生産のはざままで
  - 第四講 新・職人の風土―人を育て、環境を育む、革新と伝統のはざままで
- 資生堂イベントグループを代表する看板企画に育ったこともあって、福原義春社長(当時)直々による、近未来の職人経営の重要性を説く基調講演からスタートしたこの企画は、十五万円という高額にもかかわらず百三十名の受講者を集め、大成功の内に八ヵ月及びプログラムを終了した。
- この企画は事業としての成功の他、私の二十年余の企画人生における最も難解でかつ魅力あるテーマに出会ったという大きな意味もあった。企画の切り口が無数にあり、その何れもが一つの宇宙を構成していた。五感と

感性が育むカン・コツ・経験の世界、環境にやさしい自然素材の世界、ハイテクを支えるローテクの世界、職人特有の生産様式や技術伝承の世界、衣・食・住を豊かにする生活文化の世界、そして何より魅力的な一流の職人達の心意気の世界等々。多数の関連資料や関連図書、中でも「町工場」(森清著)、「新・職人の時代」(富沢木実著)等を擦り切れるまで読み込み、企画書を百回以上書き改めた後、ようやく納得の行く切り口に歩き着くまでに半年以上、正に悪戦苦闘の連続であった。そんな中で、編集とは情報を整理する行為であり、後で身に付ける特別なノウハウというより口ごろの精神活動自体が編集行為そのものであるということも学んだといつてもよい。後に、私は講義内容を自分の口で確かめるため、宮大工の小川三夫氏から東京大学の古川弘之総長(当時)まで、企画に上がった約百名の、現代の職人達に直接会って話を聞くことにした。様々な物づくりの視点を学んだ全国にまたがるこの職人の旅は今も私のかげがえのない財産である。

この五年間を総括すると、資生堂デザインフォーラムの主テーマは、物づくりの原点復帰であり生活文化の創造であった。それは何を作ればいいのか、どう生きればいいのかと言えることができる。両者は二十一世紀に向う日本の製造業及び産業社会で生活を営む日本人共通のテーマであろう。最新の科学技術の成果が二十一世紀の産業社会で開花し、日本人が物心共に豊かな生活を享受するためにも両者は乗り越えなければならぬ課題と言えらる。NTSにとっては理工系書籍事業に続く第二、第三の柱を将来構築するための足掛かりを築いた五年間でもあった。

掲示板

今月の人事

八月十六日入社 営業部

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。

九月二十四日(日)

電話工事について

九月十五日(祝)本社事務所内で電話工事を行いますのでよろしくお願いたします。なお、当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

編集後記

夏は必ずといっていい程太ってしまう。秋になってもたぶん瘦せられない。いいのだからか?これだ。(ボンタ加藤)  
▼毎年近所の盆踊りは「アラレちゃん音頭」。いまだときの曲をわかる人は少ないと思うけれど、何故か聞こえてくると安心してしまおう。(サンデー武田)  
▼タイ料理を作って食べた。ものすごい下痢をした。夏の終りの日。(ジャンプー西井)  
▼このメンバーでの最後の新聞となりました。紙面の雰囲気はどことなく暖かくなったのは皆さんのおかげでしょう。お疲れさまでした。なお次号より新メンバーでNTSニュースをお送りいたします。どうぞお楽しみに。(フリー伊勢)

NTSニュース二〇〇〇年七月・八月合併号(通巻二十五号)  
二〇〇〇年八月二十五日発行